

# 專 門 基 礎 分 野

解剖生理学総論  
解剖生理学Ⅰ  
解剖生理学Ⅱ  
解剖生理学Ⅲ  
生 化 学  
病理学総論  
病態治療学Ⅰ  
病態治療学Ⅱ  
病態治療学Ⅲ  
病態治療学Ⅳ  
微生物学

病床薬理学Ⅰ  
病床薬理学Ⅱ  
臨床栄養学  
臨床心理学  
看護形態機能学  
医学概論  
健康教育論  
社会福祉論  
看護と法律Ⅰ  
看護と法律Ⅱ  
公衆衛生学

教 科 目 名	解剖生理学総論	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体の発生及び解剖・生理学の歴史と人体の形態・構造について総合的に理解する。</p> <p>目標：1. 細胞の一般的な構造や器官を構成する組織の特徴を理解する。 2. 体液の性状と電解質のバランスの意義を理解する。 3. 体温の意義とその仕組みについて理解する 4. エネルギー代謝について理解する。 5. 人体の発生を理解する。 6. 血液、リンパ液等の性状とその作用を理解する。</p> <p>内容：解剖学とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造</li> <li>2. 細胞</li> <li>3. 組織 組織の概念と上皮系の組織</li> <li>4. 組織 上皮系以外の組織</li> <li>5. 体液成分と恒常性 体液の特性、調節の仕組み</li> <li>6. 体温 基礎代謝、代謝と体温の関係 体温調節</li> <li>7. 細胞のエネルギー</li> <li>8. 生体構成分子</li> <li>9. 代謝</li> <li>10. 発生 (1) 減数分裂、受精から始まる初期人体発生</li> <li>11. 発生 (2) 人体の諸器官の形成</li> <li>12. 発生 (3) 胎児膜、胎盤と臍帯</li> <li>13. 血液の組成、赤血球</li> <li>14. 白血球、血小板、血液凝固と血液型</li> <li>15. リンパ系の構造</li> </ol>
授業の形式	講義形式で、配布資料（ハンドアウト）とスライド映写を併用する。
成績評価の方法	出席と筆記試験により行う。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	事前に教科書を読んで予習しておくこと。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	人体の構造	体の各部位の名称と基本的なつくりを学習する。
2	細胞	細胞の構造と細胞分裂を学習する
3	組織	組織の概念と上皮系の組織に関して学習する。
4	組織	上皮系以外の組織に関して学習する。
5	体液の成分と恒常性	体液の特性を学習する 体液の調節の仕組みを学習する
6	体温	基礎代謝、代謝と体温の関係を学習する 体温調節を学習する。
7	細胞のエネルギー	細胞のエネルギーを学習する。
8	生体構成分子	生体を構成する主な分子の特徴を学習する。
9	代謝	分子の代謝とは何かを学習する。
10	発生 (1)	減数分裂、受精から始まる初期人体発生を学習する
11	発生 (2)	初期発生に続き、人体の諸器官がどのように形成されるかを学習する
12	発生 (3)	胎児膜、胎盤と臍帯に関して学習する
13	血液の組成、赤血球	血液の組成、機能と赤血球のはたらきについて学習する
14	白血球、血小板 血液凝固と血液型	白血球、血小板の働きと血漿タンパク質と血液凝固に関して学習する 血液型について学習する
15	リンパ系の構造	リンパ管、リンパ節、脾臓と胸腺の構造と機能を学習する
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学 I (呼吸器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 11 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（呼吸器系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：1. 呼吸器系の形態と機能を理解する。</p>
授業の形式	PC を用いたスライドによる講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院</p>
メッセージ	後期の「病態治療学」の基礎となるので、十分理解して下さい。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	呼吸器の構造	上気道から肺、および胸腔・縦隔の位置と構造、役割を理解する。
2	呼吸と呼吸運動	呼吸の種類とそのメカニズムを理解する。
3	呼吸気量	呼吸機能の評価を理解する。
4	ガス交換と肺循環	呼吸ガスの運搬と交換について理解する。
5	呼吸の調節と病態生理	呼吸のコントロールと障害について理解する。
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学 I (循環器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 13 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（循環器系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：1. 循環器系の形態と機能を理解する。</p>
授業の形式	講義、 パワーポイント使用
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	循環 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓・脈管の解剖</li> <li>・体循環、肺循環</li> <li>・胎児循環</li> </ul>
2	循環 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律神経と血圧・血流調節</li> <li>・微小循環</li> <li>・リンパ管</li> </ul>
3	心臓の電氣的活動 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激伝導系</li> <li>・心臓電気生理</li> </ul>
4	心臓の電氣的活動 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心電図</li> <li>・不整脈</li> </ul>
5	心臓の機械的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興奮収縮関連</li> <li>・心臓力学</li> </ul>
6	循環器系の病態生理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系の病態生理</li> </ul>
	学科試験 (1h)	

教 科 目 名	解剖生理学 I (腎・泌尿器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（腎・泌尿器系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。（男性生殖器を含む）</p> <p>目標：1. 腎・泌尿器系の形態と機能を理解する。</p>
授業の形式	解説 + 質問
成績評価の方法	筆記試験 + α
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院</p>
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	腎臓	腎臓の構造と機能 尿細管の構造と機能 クリアランスと糸球体濾過量 糸球体の構造と機能 傍糸球体装置 腎臓から分泌される生理活性物質
2	排尿路	排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿
3	体液の調節	水の出納 電解質の異常 脱水 酸塩基平衡
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学Ⅱ (消化器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 10 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	目的：人体を構成する諸器官（消化器系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。  目標：1. 消化器系の形態と機能を理解する。
授業の形式	講 義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	講義の進行状況により授業内容を変更することがあります。

回	授 業 内 容
1	口腔 ～ 食道、胃
2	胃 ～ 肛門
3	消化
4	消化、胆、膵
5	肝臓、門脈系
	学科試験

教 科 目 名	解剖生理学Ⅱ (骨・筋・関節系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 12 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（骨・筋系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：身体の支持と運動を担う、骨・筋肉系の形態と機能を理解する。</p>
授業の形式	教科書と配布プリントを中心に自分の身体も使った理解に努める。
成績評価の方法	筆記試験の得点及び授業への参加意欲による
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	解剖生理は医学・医療、そして看護において基礎となる部分です。 しっかりとした基礎を作りましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	骨・関節・筋 総論	教科書 P309-323 ①②③
2	体幹	教科書 P324-334 「④体幹の骨格と筋」
3	上肢	教科書 P334-349 「⑤上肢の骨格と筋」
4	下肢	教科書 P349-361 「⑥下肢の骨格と筋」
5	頭頸部	教科書 P361-369 「⑦頭頸部の骨格と筋」
6	筋の収縮	教科書 P369-381 「⑧筋の収縮」
	学科試験	



教 科 目 名	解剖生理学Ⅱ (内分泌系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	目的：人体を構成する諸器官（内分泌系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。  目標：内分泌系器官の形成と機能を理解する。
授業の形式	教科書を中心にした講義形式
成績評価の方法	筆記試験の判定により行う
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	医師会などの主催する市民講演会に参加した場合には評価致します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	内分泌解剖生理Ⅰ	内分泌系による調整、視床下部下垂体系、甲状腺、上皮小体、膵臓（消化管ホルモン含む）
2	内分泌解剖生理Ⅱ	膵臓、副腎、性腺ホルモンの働き
3	内分泌解剖生理Ⅲ	その他の内分泌線、ホルモンの調整、糖代謝、カルシウム代謝

教 科 目 名	解剖生理学Ⅱ (感覚器系：皮膚)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 2 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	目的：人体を構成する諸器官（感覚器系）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。  目標：皮膚の形態と機能を理解する。
授業の形式	講義・質疑応答
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	皮膚科に興味を持ってくれれば嬉しいです！

回	授 業 内 容
1	皮膚の構造 皮膚の機能・作用について

教 科 目 名	解剖生理学Ⅲ (脳・神経系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 12 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（脳・神経）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：脳・神経系の構造と機能を理解する。</p> <p>内容：1. 神経系の区分と発生・神経細胞の生理 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院</p> <p>専門Ⅱ「脳・神経」成人看護学[7] 医学書院</p>
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	脳神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、ニューロンでの興奮の伝導 シナプスでの興奮の伝達、神経系の構造
2	脊髄と脳①	脊髄の構造と機能 脳幹・小脳の構造と機能
3	脊髄と脳②	大脳の構造と機能
4	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能
5	脳の高次機能	意識障害の分類・スケールについて
6	運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	運動機能障害・感覚障害について
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学Ⅲ (生殖器系：女性)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	目的：人体を構成する諸器官（生殖器系：女性）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。  目標：生殖器系（女性）の形態と機能を理解する。
授業の形式	板書とお話し
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書)  系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院
メッセージ	重要な部分を覚えること。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	女性生殖器の解剖	子宮・卵管の解剖。
2	女性生殖器の生理	性周期に伴うホルモンの動向。 ホルモンの作用。
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学Ⅲ (視覚器)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（視覚器）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：視覚器の構造と機能を理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」人体の構造と機能[1] 医学書院</p>
メッセージ	<p>眼の構造と機能について講義します。</p> <p>特に遠視性弱視は、小児の疾患なので正しい理解が必要です。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	感覚器（視覚）①	眼球の構造
2	感覚器（視覚）②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠視、近視、乱視、老眼、色覚</li> <li>・視野と視力</li> </ul>
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学Ⅲ (聴覚・平衡感覚器)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（聴覚・平衡感覚器）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：聴覚・平衡感覚器の構造と機能を理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験 (解剖生理学と病態治療学を合わせて実施)
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「耳鼻咽喉」成人看護学 [14] 医学書院
メッセージ	予習をして授業に臨んで下さい。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	耳の解剖・生理	解剖・生理について (耳)
2	鼻の解剖・生理	解剖・生理について (鼻・副鼻腔)
3	喉、咽頭の解剖・生理	解剖・生理について (喉、咽頭)
	学科試験	

教 科 目 名	解剖生理学Ⅲ (歯・口腔)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：人体を構成する諸器官（歯、口腔）の基本的な形態構造と機能について学ぶ。</p> <p>目標：歯、口腔の構造と機能を理解する。</p>
授業の形式	講 義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 「歯・口腔」 医学書院</p>
メッセージ	<p>「口腔」は全身の一部です。齲蝕や歯周疾患は「歯科」だけの疾患ではなく、全身疾患とも深く関係しています。また、食事即ち栄養を摂取するのは口腔からで、摂食・嚥下は複雑なメカニズムから成立しています。「口腔」からみた「全身」を意識して頂けたらと思います。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	永久歯・乳歯 口腔の不潔物 口腔の特徴 (概要)	永久歯や乳歯の本数や名称、萌出時期について。 口腔内の細菌、プラーク、歯石について。
2	頭頸部の解剖 摂食・嚥下 (概要)	頭蓋骨、咀嚼筋、表情筋、舌、唾液腺 (唾液の役割も)、特に重要な脳神経について (顔面神経 など)。 摂食嚥下のメカニズム (概要) や咀嚼の意義について。
	学科試験	

教 科 目 名	生 化 学	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人体を構成している細胞や生体分子の構造、性質、代謝などを化学的側面から理解する。</p> <p>目標：1. 生化学の役割や生化学を学ぶ目的について理解する。 2. 生体を構成する物質について理解する。 3. 生体の物質代謝について理解する。 4. 遺伝情報とその発現について理解する。</p> <p>内容：1. 生体を構成する物質 1) 生化学を学ぶための基礎知識 2) 糖質 3) 脂質 4) タンパク質 5) 核酸 6) 水と無機質 7) ホルモン 2. 生体内の物質代謝 1) 代謝のあらまし 2) 酵素 3) ビタミンと補酵素 4) 糖質代謝 5) 脂質代謝 6) タンパク質代謝 7) 核酸代謝 8) ポルフィリン代謝 3. 遺伝情報とその発現 1) 遺伝情報 2) 先天性代謝異常</p>
授業の形式	口述講義を基本とするが、学んだ知識を確実に身につけるために演習問題にも取り組む。
成績評価の方法	筆記試験、出欠状況、受講態度を総合して評価する。
教科書・参考書	(教科書)  系統看護学講座 専門基礎 「生化学」人体の構造と機能[2] 医学書院
メッセージ	生化学は、生物の化学ではなく生命現象の化学である。生命を少し深く理解しようとするれば、どんな生命現象についても生化学の知識が必要になる。生化学の知識を身につけると、看護師にとって極めて重要な二つの事項 (1) 健康を良く理解して維持すること、(2) 病気を良く理解して効果的に看護すること、を实地に学ぶ準備が整うことになる。生化学は目に見えないものを扱うことが多いので、 <b>imagination</b> を豊かにしてしっかり修得して欲しい。



回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	◎生化学と生命 1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 細胞と細胞小器官	● 生化学とは何かを学び、生命、生体分子の概略と生化学を学ぶための基礎知識について理解する。 ● 生体の成り立ちと生体の最小単位である細胞の構造や役割について理解する。
2	◎糖質の構造と性質 1. 糖質の定義と分類 2. 糖質の役割	● 代表的な糖質であるグルコースを中心に糖質とは何かを学び、糖質の構造、性質、役割などを理解する。 ● 生体にとって重要な単糖、二糖、多糖の種類、構造、性質、役割などを理解する。
3	◎生体エネルギーと糖質代謝（1） 1. 呼吸鎖とATP産生 2. 解糖	● 生体エネルギーとは何かを学び、ATPの役割や呼吸鎖におけるATP産生機序について理解する。 ● 解糖経路について学び、その役割や生理的意義を理解する。
4	◎生体エネルギーと糖質代謝（2） 1. クエン酸回路 2. 他の糖質代謝経路	● クエン酸回路やペントースリン酸経路を学び、その役割や生理的意義について理解する。 ● グリコーゲンの生理的意義と代謝を学び、血糖値の調節について理解する。
5	◎脂質の構造と性質 1. 脂質の定義と分類 2. 脂質の役割	● 脂質とは何かを学び、一般的な構造の特徴と役割を理解する。 ● 生体にとって重要な単純脂質・複合脂質・コレステロールについて特徴と役割を理解する。
6	◎脂質代謝 1. 脂肪酸の合成と分解 2. リン脂質とコレステロールの代謝	● 脂肪酸の生合成と $\beta$ 酸化機構を学び、脂質代謝とエネルギー産生について理解する。 ● 不飽和脂肪酸の生合成、リン脂質の代謝、コレステロールの体内動態について理解する。
7	◎アミノ酸・タンパク質の構造と性質 1. アミノ酸とペプチド 2. タンパク質	● アミノ酸・ペプチドの構造や特徴、役割を理解する。 ● タンパク質の構造と特徴を学び、生体における主要な機能や役割などについて理解する。
8	◎酵素と酵素反応 1. 酵素の作用機構 2. 反応速度と酵素阻害	● 酵素の構造と機能を学び、触媒機構の特徴や基質との関係について理解する。 ● 酵素の反応速度と活性化エネルギーを学び、反応速度に影響を与える因子や阻害薬の阻害様式について理解する。
9	◎アミノ酸代謝とポルフィリン 1. アミノ酸代謝 2. ポルフィリンの役割	● 非必須アミノ酸の合成、アミノ酸窒素や炭素の代謝的運命、特殊生成物への変換、代謝異常症などについて理解する。 ● ポルフィリン、ヘムの構造と特徴を学び、その代謝や代謝異常症について理解する。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
10	◎ビタミンとホルモン 1. ビタミン、ホルモンの構造と性質 2. ホルモンの作用機序	● ビタミン、ホルモンの構造や特徴、役割について理解する。 ● ステロイドホルモンなどの作用機序について理解する。
11	◎ヌクレオチドと核酸 1. ヌクレオチドの構造と代謝 2. 核酸の構造と機能	● ヌクレオチドの構造と役割について ATP を中心に学び、その生合成と分解について理解する。 ● DNA、RNA の基本的構造や役割について理解する。
12	◎遺伝子の構成と複製 1. 染色体 DNA と遺伝子の構成 2. DNA の複製と修復	● 原核細胞および真核細胞遺伝子の構造や特徴について学び、クロマチン構造やイントロン、エクソンの意味について理解する。 ● DNA の複製機構や修復機構について理解する。
13	◎RNA の生合成 1. RNA の合成とプロセシング 2. 転写の調節	● RNA の合成とプロセシングを、mRNA を中心として塩基配列のレベルで理解する。 ● 遺伝情報の発現調節機構の概要について理解する。
14	◎タンパク質の生合成 1. アミノ酸の活性化とタンパク質合成 2. 変異	● 遺伝情報の伝達とタンパク質合成のメカニズムについて理解する。 ● 遺伝子変異の種類と発生のメカニズムについて理解する。
15	◎全体のまとめと筆記試験	● 講義中に行った演習問題の再確認などを通じて、重要事項や学習のポイントについて理解する。 ● 筆記試験を行い、理解度を確認する。
	学科試験	

教 科 目 名	病理学総論	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 16 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：疾病の分類の基礎である病気の病因論を理解し、生体に起こる病的変化、発生機序について病理組織的に学ぶ。</p> <p>目標：1.病理学の概念、病因、疾病の分類について理解する。 2.先天異常の原因と遺伝的疾患について理解する。 3.炎症と免疫・膠原病について理解する。 4.感染症について理解する。</p> <p>内容：1.病理学の概念・病気の原因・疾病分類 2.先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常とは                      2) 遺伝子異常 3) 遺伝子疾患                        4) 染色体異常による疾患 5) 胎児の障害                        6) 先天異常・遺伝子疾患の診断 3.炎症と免疫・膠原病 1) 炎症                                2) 炎症の各型 3) 免疫                                4) アレルギーと自己免疫疾患・膠原病 5) 移植と免疫 4.感染症 1) 病原体と感染症                    2) 宿主と防御機構 3) 主な病原体と感染症              4) 感染症の治療 5) 感染症の予防</p>
授業の形式	講 義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院
メッセージ	授業予定の分をあらかじめ教科書を読んで予習してくること。 ヒトのからだを外来生物などの感染から守るためにいろいろな細胞が生体内で機能しています。それらの「炎症反応と免疫」、また「それらの過剰反応による疾患」、「感染症の病理」の基礎的な内容を理解すること

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	病理学とは	病理学の概念・病気の原因・疾病分類について学習する。
2	先天異常	先天異常および遺伝の生物学について学習する。
3	遺伝子疾患	遺伝子の異常による疾患について学習する。
4	染色体異常、胎児の障害	染色体異常、胎児の障害および先天異常・遺伝性疾患の診断について学習する。
5	炎症と免疫	炎症に関わる細胞とその役割，免疫反応における各細胞の機能など，炎症・免疫反応の基礎的内容を学習する。
6	アレルギー，膠原病，自己免疫疾患，移植	各種炎症性疾患，免疫過剰反応による疾患形成と病態形成の基本を学習する。
7	病原体と感染症の病理	感染症の病態形成の基礎を学習する。
8	おもな感染症と治療・予防	主要な感染症の病態を学習し，治療と予防について考える。
	学科試験	

教 科 目 名	病 理 学 総 論	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間) 中の 8 時間
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：疾病の分類の基礎である病気の病因論を理解し、生体に起こる病的変化、発生機序について病理組織的に学ぶ。</p> <p>目標：1.代謝障害について理解する。 2.循環障害について理解する。</p> <p>内容：1.代謝障害  1) 細胞の損傷と適応    2) 物質沈着  3) 脂質代謝障害と疾病   4) タンパク質代謝障害と疾病  5) 糖質代謝障害と疾病   6) その他の代謝障害と疾病  2.循環障害  1) 循環器系の概要        2) 局所の循環障害  3) 全身性の循環障害    4) リンパ系の循環障害</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	循環障害①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環器系の概要</li> <li>・ 局所性の循環障害</li> <li>・ 全身性の循環障害</li> </ul>
2	代謝障害①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細胞の損傷と適応</li> <li>・ 物質沈着</li> </ul>
3	代謝障害②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脂質代謝障害と疾患</li> <li>・ タンパク質代謝障害と疾患</li> </ul>
4	代謝障害③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 糖質代謝障害と疾患</li> <li>・ その他の代謝障害と疾患</li> </ul>
	学科試験	

教 科 目 名	病 理 学 総 論	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間) 中の 4 時間
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：疾病の分類の基礎である病気の病因論を理解し、生体に起こる病的変化、発生機序について病理組織的に学ぶ。</p> <p>目標：腫瘍について理解する。</p> <p>内容：1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生病理 3) 悪性腫瘍の転移と進行度 4) 腫瘍の診断と治療 5) 腫瘍の統計</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、発生病理
2	腫瘍 2	悪性腫瘍の転移と進行度 腫瘍の診断と治療
	学科試験	

教 科 目 名	病 理 学 総 論	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間) 中の 2 時間
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：疾病の分類の基礎である病気の病因論を理解し、生体に起こる病的変化、発生機序について病理組織的に学ぶ。</p> <p>目標：老化と死について理解する。</p> <p>内容：1.細胞の老化と個体の老化 2.加齢に伴う諸臓器の変化 3.個体の死</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	出席を考慮し、筆記試験で評価する。
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 「病理学」疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院</p>
メッセージ	あらかじめ、予習をしておくこと。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	老化と死	細胞の老化と個体の老化 加齢に伴う諸臓器の変化 個人の死
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学 I (呼吸器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 12 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：呼吸器系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：呼吸器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	PCを用いたスライドによる講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座          専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院</p> <p>系統看護学講座          専門Ⅱ 「呼吸器」 成人看護学 [2] 医学書院</p>
メッセージ	<p>国家試験に通る知識ではなく、看護の仕事に必要な知識が身につく授業をします。しかし、身につくかどうかは皆様の努力次第です。必ず予習・復習をして下さい。</p>

回	授業主題	授 業 内 容
1	症状とその病態生理	呼吸器疾患の症状とその病態生理を理解する。
2	検査	呼吸器疾患の診断に必要な検査を理解する。
3	治療と処置	呼吸器疾患に必要な看護や治療・処置を理解する。
4	感染症	感染症の病態と診断・治療を理解する。
5	内科的疾患	感染症以外の内科的疾患の診断・治療を理解する。
6	外科的疾患	腫瘍性疾患と移植・外傷について理解する。
	学科試験	



教 科 目 名	病態治療学 I (循環器系)	単位数 (時間数)	1 単位( 30 時間中の 12 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	目的：循環器系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。  目標：循環器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「循環器」成人看護学 [ 3 ] 医学書院
メッセージ	不明な点、たくさん質問して下さい。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	循環器疾患	循環器の疾患・検査 心筋梗塞・高血圧・狭心症・不整脈・動脈瘤・脳梗塞・肺塞栓
2	循環器疾患	狭心症・心筋梗塞、特徴と違い 心エコー、CT
3	循環器疾患	不整脈・救急外来 心電図の見方
4	循環器疾患	心不全 (左心不全・右心不全)、特徴と症状 血圧
5	循環器疾患	先天性心疾患他
6	循環器疾患	心肺蘇生法・AED・まとめ
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学 I (腎・泌尿器系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：腎・泌尿器系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：腎・泌尿器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>		
授業の形式	解説 + 質問		
成績評価の方法	筆記試験 + α		
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「腎・泌尿器」成人看護学 [8] 医学書院		
メッセージ			
回	授 業 主 題	授 業 内 容	
1	概要、病態	1) 概要 2) 病態 ・腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路結石症 ・前立腺肥大症 ・膀胱腫瘍	
2	主な症状、主な検査	3) 主な症状 ・浮腫 ・水と電解質の異常 ・尿の異常 ・発熱 ・尿毒症 ・疼痛 ・排尿障害 4) 主な検査 ・腎動脈撮影 ・尿の検査 ・腎機能検査 ・I P ・腎生検 ・膀胱鏡 ・膀胱内圧測定	
3	治療、予後	5) 治療 ・透析治療 (P D、HD、CAPD) ・食事療法 ・安静療法 ・手術療法 ・薬物療法 ・腎移植 ・放射線療法 6) 予後	
	学科試験		

教 科 目 名	病態治療学Ⅱ (消化器内科系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 10 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：消化器系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：消化器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	パワーポイント
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 「消化器」成人看護学 [5] 医学書院</p>
メッセージ	消化器内科の楽しさと基礎的なことを学びましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	総論、消化器	消化器のしくみ、消化器疾患の特徴 食道の疾患
2	胃、食道、十二指腸	胃の疾患の特徴・検査・診断 胃潰瘍について
3	腸	内視鏡、大腸 腸および腹膜疾患 胆道系の構造
4	肝	肝臓 ・腹部の4区分 ・血管 ・働き ・肝硬変 ・肝炎 ～疾患について
5	胆、膵	胆嚢、膵臓の構造と機能
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学Ⅱ (消化器外科系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：消化器外科系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：消化器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	板書
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座          専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院</p> <p>系統看護学講座          専門Ⅱ 「消化器」 成人看護学 [5] 医学書院</p>
メッセージ	<p>消化器の絵を書ける様にして下さい (P23)</p> <p>試験に出しますよ。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	消化器系疾患	癌の一般的な特徴 食道癌、胆道癌の病理・症状・診断・外科的治療。
2	消化器系疾患	胃癌、大腸癌の病理・症状・診断・外科的治療
3	その他の腫瘍	乳癌の病理・症状・診断・外科的治療 その他 (トピックス)
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学Ⅱ (骨・筋・関節系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 10 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	目的：骨・筋肉系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ 目標：骨・筋肉系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。
授業の形式	講義
成績評価の方法	総合評価 (試験、授業態度、出席状況、レポート等)
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 「運動器」 成人看護学 [10] 医学書院
メッセージ	医療人としての人間性をより重要視します。 系統立てて理解するようにしましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	運動器の構造と機能 症状とその病態生理	解剖・生理の復習 病態生理の理解
2	診断・検査と治療・処置	診察・診断の流れ、各種検査法 保存的 (非観血的) 治療法、手術的 (観血的) 治療法
3	外傷性 (外因性) の 運動器疾患	骨折、脱臼、捻挫、打撲、神経損傷 等
4	非外傷性 (内因性) の 運動器疾患 1	先天性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患、代謝性疾患、 神経系疾患 他
5	非外傷性 (内因性) の 運動器疾患 2	上肢・上肢帯の疾患、下肢・下肢帯の疾患 脊椎・脊柱の疾患
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学Ⅱ 感覚器系：聴覚	単位数（時間数）	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	目的：感覚器系（聴覚）の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について理解する。  目標：感覚器系（聴覚）の原因、症状、検査、予後について理解する。
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験 (解剖生理学と病態治療学を合わせて実施)
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「耳鼻咽喉頭」成人看護学 [14] 医学書院
メッセージ	予習をして授業に臨んで下さい。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	検査一般 耳の疾患 病理	・耳鼻咽喉頭症状の検査 ・耳の疾患の理解
2	鼻の疾患 病理 喉咽頭の疾患 病理	・鼻、副鼻腔疾患の理解 ・喉、咽頭疾患の理解
	学科試験	

教 科 目 名	病態治療学Ⅲ (脳・神経系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 12 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	目的：脳・神経系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について理解する。  目標：脳・神経系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。
授業の形式	講義
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 「脳・神経」 成人看護学 [7] 医学書院
メッセージ	脳卒中や認知症など脳神経の疾患は看護師の知識として必要不可欠なものです。楽しく勉強しましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	脳血管障害 1	出血性脳血管障害 (脳出血・くも膜下出血など)
2	脳血管障害 2	虚血性脳血管障害 (脳梗塞他)
3	脳腫瘍 脳及び神経の感染症	脳腫瘍・脳膿症・髄膜炎・脳炎他
4	頭部外傷 水頭症 脊髄疾患	脳挫傷・硬膜下血腫・硬膜外血腫・水頭症・脊髄損傷他
5	末梢神経障害 神経・筋疾患	神経炎・ギランバレー症候群・重症筋無力症他
6	脱髄・変性疾患 中毒 てんかん・認知症他	認知症・多発性硬化症・パーキンソン病・てんかん他

教 科 目 名	病態治療学Ⅲ (内分泌・代謝系)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 8 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：内分泌・代謝系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について理解する。</p> <p>目標：内分泌・代謝系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	教科書を中心にした講義形式
成績評価の方法	教科試験の成績判定により行う
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座            専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院</p> <p>系統看護学講座            専門Ⅱ 「内分泌・代謝」 成人看護学 [6] 医学書院</p>
メッセージ	医師会などの主催する市民講演会に参加した場合には評価致します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	内分泌代謝系疾患Ⅰ	内分泌疾患の検査 甲状腺疾患（甲状腺腫瘍含む）副甲状腺疾患
2	内分泌代謝系疾患Ⅱ	視床下部、下垂体系疾患 プロラクチノーマ、巨人症、クッシング症候群、下垂体機能低下症など
3	内分泌代謝系疾患Ⅲ	糖尿病（Ⅰ型、Ⅱ型）病態、治療
4	内分泌代謝系疾患Ⅳ	消化管ホルモン産生腫瘍、脂質異常症、 メタボリック症候群、尿酸代謝障害



教 科 目 名	病態治療学Ⅲ (生殖器系：女性)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	目的：生殖器系(女性)の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、 予後について理解する。  目標：生殖器系(女性)疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。
授業の形式	板書、話
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「病理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 「女性生殖器」 成人看護学 [9] 医学書院
メッセージ	講義内容を覚えること

回	授 業 内 容
1	染色体異常・腔疾患 子宮筋腫・子宮がん
2	子宮内膜症 子宮外妊娠 他
3	卵巣腫瘍 不妊症・STD 他

教 科 目 名	病態治療学Ⅲ (感覚器：皮膚)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：感覚器系（皮膚）の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について理解する。</p> <p>目標：感覚器系（皮膚）の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	講義・質疑応答
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 「皮膚」成人看護学 [1 2] 医学書院</p>
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	皮膚科疾患 総論	皮膚の構造と機能、作用について
2	皮膚科疾患 各論	湿疹・皮膚炎 皮膚感染症 褥瘡について

教 科 目 名	病態治療学IV (アレルギー・膠原病)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 8 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：アレルギー・膠原病・感染症等の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：アレルギー・膠原病・感染症等の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 「アレルギー・膠原病・感染症」成人看護学 [1 1] 医学書院</p>
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	免疫	免疫一般疾患
2	アレルギー	アレルギー一般疾患
3	膠原病	RA・SLE 他
4	感染症	日和見感染・AIDS 他

教科目名	病態治療学IV (血液・造血器系)	単位数(時間数)	1単位(30時間中の6時間)
担当者	非常勤講師	講義学年・学期	2年次 前期

学習目標	<p>目的：血液・造血器系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：血液・造血器系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 「血液・造血器」成人看護学 [4] 医学書院</p>
メッセージ	

回	授業主題	授業内容
1	貧血	貧血一般・鉄欠乏性貧血他
2	造血	造血一般・巨赤芽球性貧血他
3	白血病	白血病について

教 科 目 名	病態治療学IV (感覚器系：視覚)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：感覚器（視覚）系の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：感覚器（視覚）系疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	ペーパーテスト
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「眼」成人看護学 [1 3] 医学書院
メッセージ	<p>白内障、緑内障、結膜炎、網膜剥離、眼底出血等、眼の病気の中でも重要な疾患を講義します。</p> <p>将来、患者さんや家族、親戚や友人に質問されることがあると思います。自信をもって答えてあげられるようになってください。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	感覚器（視覚）①	白内障、緑内障など眼疾患
2	感覚器（視覚）②	糖尿病網膜症 眼科の治療 黄斑変性症など 眼科の検査

教 科 目 名	病態治療学IV (歯・口腔)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：歯・口腔の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：歯・口腔疾患の原因、症状、検査、予後について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	定期試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門Ⅱ 「歯・口腔」成人看護学 [15] 医学書院
メッセージ	「口腔」は全身の一部です。齲蝕や歯周疾患は「歯科」だけの疾患ではなく、全身疾患とも深く関係しています。また、食事即ち栄養を摂取するのは口腔からで、摂食・嚥下は複雑なメカニズムから成立しています。「口腔」からみた「全身」を意識して頂けたらと思います。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	う蝕・歯周疾患 誤嚥性肺炎	歯科二大疾患の特徴について。 口腔疾患と全身疾患の繋がりについて。
2	歯科と関わりの深い 口腔領域の疾患	唇顎口蓋裂、歯性上顎洞炎、顎骨骨折、顎関節症、舌癌、 三叉神経痛、顔面神経麻痺など

教 科 目 名	病態治療学IV (放射線医学)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：放射線医学の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：放射線医学のなりたち、治療、診断について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	放射線医学総論	Diagnostic radiology、Interventional radiology、Radiation oncology、Nuclear medicine の概要および紹介
2	放射線防護	放射線の生体に及ぼす影響および防護

教 科 目 名	病態治療学IV (放射線医学)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 4 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：放射線医学の主な疾患の臨床像、病因、病態生理、診断、治療、予後について系統的に学ぶ。</p> <p>目標：放射線の防護・管理について理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院
メッセージ	分子の世界（目に見えない）なので、イメージを大事にして下さい。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	放射線医学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線医学の成り立ちと意義</li> <li>・ 画像診断における留意点</li> <li>・ X線診断</li> <li>・ C T</li> <li>・ MRI</li> <li>・ 超音波検査</li> </ul>
2	放射線防護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線障害</li> <li>・ 放射線防護</li> </ul>





回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	微生物総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物とは、微生物学の歩み・学ぶ目的を理解する</li> <li>・細菌・ウイルス・真菌・原虫それぞれの性質と特徴を学び、ヒトとの相違を理解する</li> </ul>
2	感染と感染症 生体防御機構 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の成立について学ぶ</li> <li>・自然免疫のしくみ、常在細菌叢・マクロファージの働きを学ぶ</li> </ul>
3	生体防御機構 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得免疫のしくみ、免疫担当細胞・獲得免疫の成立について学ぶ</li> <li>・液性免疫・細胞性免疫の特徴、ワクチン・免疫異常など免疫に関連した防御機構</li> </ul>
4	感染症の診断・治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体を検出する方法を学び、感染症の診断方法について学ぶ</li> <li>・抗菌剤・抗ウイルス剤・抗真菌剤の作用点および副作用について薬剤耐性菌に対する考え方</li> </ul>
5	病原細菌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラム陽性球菌とくにブドウ球菌について</li> <li>・グラム陰性桿菌とくに腸内細菌について</li> <li>・その他、嫌気性菌・結核菌・マイコプラズマなど</li> </ul>
6	ウイルス感染症 真菌感染症・原虫感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNA ウイルスによる感染症</li> <li>・RNA ウイルスによる感染症</li> <li>・真菌・原虫による感染症の特異性を学ぶ</li> </ul>
7	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における感染症について基礎的な面から総合的に考える。</li> <li>・院内感染に対しての理解を深める</li> </ul>
	学科試験	

教 科 目 名	臨 床 薬 理 学 I	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：疾病の病態生理に裏付けされた薬物の生体における作用と動態を理解すると共に、薬物を与薬する際の管理や観察における基本的な知識と姿勢を身につける。</p> <p>目標：1. 薬理学の概念と薬効に影響を及ぼす要因を理解する。  2. 薬物の特徴と作用機序を理解する。  3. 薬物治療における看護師の役割を理解する。  4. 薬の有害作用、適用について理解する。  5. 抗菌感染薬に関する基礎事項を理解する。  6. 消毒薬の種類と応用について理解する。  7. 外用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬について理解する。</p> <p>内容：1. 薬とはどのようなものか  1) 薬物治療の目指すもの      2) 薬理作用  3) 薬効に影響を及ぼす要因  ・用量      ・年齢      ・性別      ・感受性  2. 薬物療法における看護師の役割  1) 誤薬の確認                      2) 治療効果の確認  3) 副作用、有害作用の発見と防止  4) 服薬に関する指導              5) 治療効果の説明  3. 薬の適用  1) 薬の適用  (内服、注射、吸入、直腸内適用)  2) 各種製剤と処方箋  4. 抗感染症薬  1) 感染症治療に関する基礎知識  2) 抗生物質各論  5. 免疫治療薬  1) 免疫反応のしくみ  2) 免疫抑制薬  3) 免疫増強薬  6. 消毒薬  1) 消毒薬とはなにか  2) 消毒薬の種類と応用</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「薬理学」 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	総論 1 (薬理学の概念)	薬を用いて病気を治療するということはどういうことか、また薬物に求められる基本的な性質はどのようなものかについて概説する。
2	総論 2 (薬の作用機序と体内動態)	薬物の働きは生理機能にどう関わっているのか、また投与方法の違いによって薬の効果がどう変わるのかについて概説する。
3	総論 3 (薬効に影響する因子)	同じ投与量であっても薬の効果は同じように得られるとはかぎらない。同一の薬用量を与えたときに薬効に影響を与える主要な因子について概説する。
4	総論 4 (薬の有害作用、薬の管理、新薬開発)	薬が有害作用を引き起こす際のメカニズムを概説する。また、薬の管理について看護師が心得ておくべきことを概説する。
5	各論 1 (感染症治療の基礎事項、抗菌薬各論 1)	感染症治療に必要な基礎事項について概説する。また、抗菌作用のしくみや抗菌薬の各論について説明する。
6	各論 2 (抗菌薬各論 2、抗ウイルス薬、消毒薬)	抗真菌薬、抗ウイルス薬の作用、消毒薬の分類、作用について概説する。
7	各論 3 (免疫治療薬)	免疫反応の仕組みとその抑制薬、増強薬について説明する。消毒薬について説明する。
	学科試験	

教科目名	臨床薬理学Ⅱ (免疫治療薬 他)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 15 時間)
担当者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：臨床現場で用いられている代表的な薬の作用機序と副作用、与薬上の留意点について学ぶ。</p> <p>目標：1. 末梢での神経活動に作用する薬物について理解する。 2. 中枢神経系に作用する薬物について理解する。 3. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物について理解する。 4. 免疫治療薬について理解する。</p> <p>内容：1. 末梢での神経活動に作用する薬物 1) アドレナリン作動薬・抗アドレナリン作動薬 2) コリン作動薬・抗コリン作動薬 3) 筋弛緩薬・局所麻酔薬 2. 中枢神経系に作用する薬物 1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬 3) 抗精神薬・抗不安薬 4) 抗うつ薬 5) パーキンソン症候群治療薬 6) 抗てんかん薬 7) 麻薬性鎮痛剤 3. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 1) 呼吸器系に作用する薬 a) 気管支喘息治療薬 b) 鎮咳薬 c) 去たん薬 d) 呼吸促進薬 2) 消化器系に作用する薬 a) 消化性潰瘍治療薬 b) 制吐薬 c) 下痢と止痢薬 d) 駆虫薬 3) 生殖器系に作用する薬 a) 子宮収縮薬 4. 皮膚科用薬・眼科用薬 5. 救急の際に使用される薬物 6. 漢方薬</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	所定の試験 (客観テスト)
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「薬理学」 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	末梢での神経活動に作用する薬物 ①	交感神経系、副交感神経系の興奮薬、遮断薬の分類及び作用のしくみについて説明する
2	末梢での神経活動に作用する薬物 ②	運動神経系、知覚神経系への作用薬の分類及び作用のしくみについて説明する
3	中枢神経系に作用する薬物 ①	全身麻酔薬、催眠薬、抗精神薬、抗不安薬、抗うつ薬の分類及び作用の仕組みについて説明する
4	中枢神経系に作用する薬物 ②	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬の作用のしくみについて説明する
5	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ①	呼吸器系、消化器系への作用薬の分類及び作用のしくみについて説明する
6	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ②	消化器系及び生殖器系への作用薬の分類及び作用のしくみについて説明する
7	外用薬・救急の際に使用される薬物、漢方薬	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬について説明する

教 科 目 名	臨床薬理学Ⅱ (抗アレルギー薬 他)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：臨床現場で用いられている代表的な薬の作用機序とその作用、与薬上の留意点について学ぶ。</p> <p>目標：1. アレルギー及び炎症に対する薬物について理解する。 2. 心臓・血管系に作用する薬物について理解する。 3. 物質代謝に作用する薬物について理解する。 4. 抗がん剤について理解する。</p> <p>内容：1. アレルギー及び炎症に対する薬物 1) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2) 炎症薬 2. 心臓・血管系に作用する薬物 1) 心臓に作用する薬 2) 血液に作用する薬 3. 物質代謝に作用する薬物 1) 糖尿病治療薬 2) 甲状腺疾患治療薬 3) 下垂体ホルモン 4) 治療薬としてのビタミン 4. 抗がん剤 1) 抗がん作用のしくみ 2) 抗がん薬各論</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	テスト
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「薬理学」 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	抗アレルギー薬、抗炎症薬 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬</li> <li>・ 炎症と抗炎症薬</li> </ul>
2	抗アレルギー薬、抗炎症薬 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節リウマチ治療薬</li> <li>・ ゼミナール</li> </ul>
3	心臓・血管系に作用する薬物 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗高血圧薬</li> <li>・ 狭心症治療薬</li> <li>・ うっ血性心不全治療薬</li> </ul>
4	心臓・血管系に作用する薬物 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗不整脈薬</li> <li>・ 利尿薬</li> <li>・ 脂質異常症</li> <li>・ 貧血</li> </ul>
5	物質代謝に作用する薬物 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧血治療薬</li> <li>・ 造血因子の臨床応用</li> <li>・ 血液悪性腫瘍治療薬</li> <li>・ 抗血液凝固薬</li> <li>・ 血栓溶解薬および抗血小板薬</li> <li>・ 止血薬</li> <li>・ ゼミナール</li> </ul>
6 7	物質代謝に作用する薬物 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホルモンおよびホルモン拮抗薬</li> <li>・ 糖尿病治療薬</li> <li>・ 甲状腺疾患治療薬</li> <li>・ 下垂体ホルモン</li> <li>・ 骨粗鬆症の治療薬</li> <li>・ 治療薬としてのビタミン</li> </ul>
8 (0.5)	抗がん剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗がん作用のしくみ</li> <li>・ 抗がん薬各論</li> <li>・ ゼミナール</li> </ul>
	学科試験	



教 科 目 名	臨 床 栄 養 学	単位数 (時間数)	1 単位(1 5時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 中期

学習目標	<p>目的：人体と栄養の関連及びその意義について理解すると共に、生体の内部環境を一定に維持することと、疾病の治療・予防と栄養及び健康の維持・増進と栄養の関連について学ぶ。</p> <p>目標：1. 臨床栄養学の意義を理解する。 2. 栄養素とその機能を理解する。 3. 予防医学の見地から、適切な栄養の取り方を理解する。 食生活と疾病の発生との関係を理解する。 4. 幼児期から高齢者までのライフステージの特徴と食生活について理解する。 5. 生活習慣病などの疾病予防、治療を目的にした食生活について理解する。</p> <p>内容：1. 人間の健康における栄養摂取の意義 2. 栄養素の代謝機能 3. 食生活と疾病発生の関係 4. 栄養状態の判定、栄養アセスメント 5. ライフサイクルと栄養 6. 健康障害と栄養療法</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「栄養学」人体の構造と機能 [3] 医学書院
メッセージ	<p>欠席しないこと。</p> <p>食は人間にとって不可欠なもの。食生活を変えるまたは、変えさせるというのは簡単にはできません。</p> <p>自分自身の身体で比較し、相手の身になって一緒に考えられる食生活を学びましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの食品・食事・食生活</li> <li>人間栄養学と看護</li> </ul>	人間の食事と食文化・食品と食品群 食生活の変遷と栄養問題点 栄養と栄養素・栄養学の歴史 医療と栄養学・看護と栄養
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の種類とはたらき ー炭水化物ー</li> </ul>	炭水化物の種類とはたらき 植物繊維について
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の種類とはたらき ー脂質・タンパク質ー</li> </ul>	脂質の種類とはたらき コレステロールについて タンパク質の種類とはたらき アミノ酸スコアについて
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の種類とはたらき ービタミン・ミネラル・水ー</li> </ul>	ビタミンの種類とはたらき ミネラル及び水のはたらきについて
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー代謝</li> <li>栄養素の消化・吸収</li> </ul>	食品のエネルギー・体内のエネルギー 基礎代謝量・特異動的作用・活動代謝量について 栄養素の消化・吸収・体内運搬について
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の評価・判定</li> <li>ライフステージと栄養</li> </ul>	栄養状態の評価・判定の定義と目的・測定法について 乳幼児・学童・思春期・青年期における栄養 青年・妊娠・授乳期・更年期における栄養。高齢期における栄養。
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養ケア・マネジメント</li> <li>臨床栄養</li> </ul>	栄養ケア・マネジメントとは 栄養アセスメント 病院食 疾患別食事療法の実際について
	学科試験	

教 科 目 名	臨床心理学	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標	<p>目的：心理的な問題をもつ個人や集団の不適応状態をアセスメントし、解決を指向するための心理療法について学び、心理的援助を展開する基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 臨床心理学の歴史を理解する。 2. 臨床心理学の実践活動について理解する。 3. 臨床心理学の対象について理解する。 4. 臨床心理学の理論モデル、技法モデルについて理解する。 5. 心理療法の社会的専門性について理解する。</p>
授業の形式	<p>講義及び演習</p> <p>毎回講義終了前に、その回の講義内容等に関する質問、疑問、自分なりの意見、考えを書いてもらい、一方通行にならない授業にしていきます。</p>
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>ナースだからできる 5 分間カウンセリング —看護現場で役立つ心理的ケアの理論と実際 医学書院</p> <p>適宜、プリントを配布</p>
メッセージ	<p>皆さんが看護師として臨床の現場に出た際、必要となってくる患者さんや患者さんの家族、そして自分自身のメンタルヘルスケアについて、臨床心理学を基に学んでいきます。事例を多く用い、グループワーク等をしながら、皆さんに想像し、考え、話し合ってもらい、学びを深めていきたいと思えます。毎回講義の終わりに、その回の講義内容に関する質問、疑問、自分なりの意見、考えを書いて提出してもらいます。一方的にならない講義を心がけます。よろしくお願いいたします。</p>

回	授業主題	授 業 内 容
1	臨床心理学とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学とはどのような学問か</li> <li>・対象援助と心理学</li> </ul>
2	臨床心理学とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の歴史</li> <li>・心理学の研究方法</li> </ul>
3	感覚と知覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外界を理解する心のはたらき</li> <li>・感覚のしくみとはたらき</li> <li>・近くのしくみとはたらき</li> </ul>
4	記憶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶のメカニズム</li> <li>・感覚・短期記憶と作業記憶</li> <li>・長期記憶と忘却</li> </ul>
5	思考・言語・知能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考</li> </ul>
6	学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習とは</li> <li>・古典的条件づけ</li> </ul>
7	学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラント条件づけと学習の理論</li> <li>・社会的学習と効果的な学習方法</li> </ul>
8 (0.5)	感情と動機付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情と諸相</li> <li>・感情のメカニズム</li> </ul>
9	感情の動機付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動機付け</li> <li>・動機付けの理論</li> </ul>
10	性格とパーソナリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性格とは</li> <li>・性格の理論</li> <li>・性格との測定</li> </ul>
11 12	社会と集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的認知</li> <li>・態度と説得的コミュニケーション</li> <li>・対人関係と対人能力</li> <li>・集団とリーダーシップ</li> </ul>
13	発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達とは</li> <li>・乳幼児の発達</li> <li>・児童・青年の発達</li> <li>・成人・高齢者の発達</li> </ul>
14	心理臨床	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理臨床と臨床心理学</li> <li>・心の適応と不適応</li> <li>・心理療法(カウンセリング)</li> </ul>
15	医療・看護と心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療職と対人関係</li> <li>・患者の心理</li> <li>・医療・看護職の心のケア</li> </ul>
15	学科試験	

教 科 目 名	看護形態機能学	単位数 (時間数)	1 単位・ 30 時間
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年生 前期～後期

キーワード	解剖生理、病態生理、症候、臨床判断能力 疾病分類 (代謝障害 / 循環障害 / 腫瘍 / 炎症 / 先天異常)
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目 的：解剖生理学や薬理学等の知識を看護の視点からアセスメントし、看護判断,実践へと結びつけ、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な「臨床判断能力」を養う。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症候のメカニズムに共通する現象を理解できる</li> <li>2. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の分類ができる</li> <li>3. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の対処や対処の原則が理解できる</li> </ol>
授業の形式	講義を主としながら進めますが、適宜 GW 演習も行っています。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価します。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「病理学」 医学書院 他</p> <p>講義に関連する資料を適宜、配布します</p>
メッセージ	<p>既習の解剖生理学や病理学、病態治療学 等の知識を土台とし、臨床で良く遭遇し、かつ重要な症状,徴候について学習していきます。</p> <p>また、疾病の起こるメカニズムを学習し、その不調がどのように現れるのかという実践的な捉え方が出来ることで、臨床で接する患者に起こっている病的変化を根本から理解できると思います。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	
1 (0.5h)	疾病、病態と症状、 徴候の関係	(1) 疾患別の分類、病因別の分類 (2) 症状・徴候別の分類 (3) 疾病、病態と症状、徴候の関係	専任教員
2	細胞, 組織の障害	(1) 細胞の損傷と適応 (2) 細胞の死 (3) 炎症	〃
3 4	体液の異常	(1) 体液の恒常性 (2) 電解質の異常 (3) 酸塩基平衡の異常	〃
5 6 7	循環障害	(1) 浮腫と腹水、胸水 (2) 出血、充血とうっ血 (3) 血栓症、塞栓症 (4) 虚血と梗塞 (5) 側副循環	〃
8 9	代謝障害	(1) 糖代謝の異常 (2) 脂質代謝の異常 (3) 蛋白代謝異常 (4) 核酸、Ca、P代謝異常	〃
10 11	免疫・アレルギー	(1) 免疫のしくみ (2) 免疫反応の低下 (3) 免疫反応の過剰	〃
12	感染症	(1) 病原体と感染症 (2) 感染の成立 (3) 治療と予防	〃
13 14	血液障害	(1) 骨髄機能と障害 (2) 赤血球の機能と障害 (3) 白血球の機能と障害 (4) 血小板と出血傾向	〃
15	学科試験		

教 科 目 名	医療概論	単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標  (授業の位置づけ)	<p>目的：医療の概念と変遷を学び、現代の医療における諸問題を理解する。</p> <p>目標：1.医療の歴史的変遷を理解する。 2.人々の健康ニーズと健康サービス、諸制度を理解する。 3.医療の現状と問題点・背景を理解する。</p> <p>内容：1.医療の概念とは 2.医療の歴史 3.健康ニーズと医療システム 4.医療の現状と問題点及び背景 1) 健康維持コストの高揚への対応 2) 施設内医療から地域医療へ 3) 高度先端医療の導入と医の倫理 4) 患者中心の医療と患者の権利</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	筆記試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 「医療概論」 医学書院
メッセージ	医療者として、知っておかなければならない事について講義します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	医療の概念とは	医学とは 援助と共感、生命現象と死、パターンリズム、 キューブラー・ロス「死へのプロセス」 デーケンの悲嘆プロセス
2	医療の歴史	医学の芽生え、医学の父ヒポクラテス、ヒポクラテスの誓い 炎症の5徴候、ガレノスの呪縛、外科医パレ
3	医療の歴史	世界初の全身麻酔手術、華岡青洲、種痘の父 ジェンナー リスターの無菌手術、結核菌の発見 コッホ
4	医療の歴史	北里柴三郎、野口英世、フレミングーペニシリンの発見 X線の発見、ナイチンゲール看護覚え書
5	健康ニーズと 医療システム	日本の医療システム、国民皆保険、介護保険、救急医療、 救命蘇生法、AED
6	医療の現状と問題点	健康維持コストの高揚への対応 院内感染対策、生活習慣病、クリティカルパス 施設内医療から地域医療へ、在宅医療、地域連携パス
7	医療の現状と問題点	高度先端医療の導入と医の倫理、脳死・臓器移植 患者中心の医療と患者の権利、インフォームドコンセント
	学科試験	



教 科 目 名	健康教育論	単位数 (時間数)	1 単位(1 5時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

キーワード	ヘルスプロモーション、健康教育、アンドラゴジー、ペタゴジー、自己効力感、セルフケア、看護の教育機能、学習支援
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：人間の健康にかかわる行動や学習について学び、成長を促すための看護教育機能と指導技術についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の健康にかかわる行動や学習について理解する。</li> <li>2. 看護における学習支援の目的と意義を理解する。</li> <li>3. さまざまな場での学習支援のあり方を理解する。</li> <li>4. 健康状態の変化に伴う学習支援の特徴を理解する。</li> <li>5. 対象への学習支援の実際を学ぶ。</li> </ol>
授業の形式	講義および演習
成績評価の方法	授業出席時間、筆記試験
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学② 医学書院  系統看護学講座 専門分野Ⅱ「成人看護学総論」成人看護学① 医学書院</p>
メッセージ	<p>わが国において、少子高齢社会や疾病構造の変化に伴い、健康観の多様化や疾病予防の意識の高まりから、看護の機能として対象者が自ら健康問題に主体的に支援するという考え方が重要視されている。</p> <p>この科目では、人々の健康にかかわる行動を理解し、看護における学習支援とその実践方法について学習します。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	ヘルスプロモーション 成人の健康行動のとりえ方	1. ヘルスプロモーションと看護 2. 個人の主体的な健康づくり 3. 健康増進のための環境づくり 4. 成人の健康行動のとりえ方	専任教員
2	看護における学習支援	1. 学習支援の基本となる考え方 2. 看護における学習支援 3. 看護師の役割としての学習支援	
3	健康に生きることを支える学習支援 健康状態の変化に伴う学習支援	1. さまざまな形で行われる学習支援 家庭・学校・職場・地域社会 2. 健康状態の変化に伴う学習支援 外来・入院・退院 3. 学習支援の実際	
4	ライフサイクルと健康管理	1. 乳児期から青年期における健康管理 2. 成人・高齢期における健康管理 3. 母性と健康問題	非常勤講師
5	学習支援の実際	1. 個人を対象とした学習支援 ・事例による個人を対象とした学習支援 (演習)	専任教員
6			
7			
	学科試験		

教 科 目 名	社会福祉論	単位数(時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	第2 学年 後期

学習目標	<p>目的；我が国の法に基づき、国民のニーズに応えるため社会保障と社会福祉、保障制度を体系的に学び、様々な制度の概要や保障内容について学ぶ。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障と社会福祉の概要を体系的に理解し、保障内容を学ぶ。</li> <li>2. 社会福祉制度の背景と社会福祉を担う組織・従事者について理解する。</li> <li>3. 医療保障制度の基盤となる、医療保険制度と保険診療のしくみについて理解する。</li> <li>4. 介護保険制度成立の経緯と概要、今後の展望を知る。</li> <li>5. 所得補償制度のしくみ、年金制度、社会手当、労働保険について理解する。</li> <li>6. 生活保護制度と社会における貧困や低所得者問題に対応する公的扶助制度と変遷、制度適用の実態と動向を知る。</li> <li>7. 医療・看護と社会福祉の関連および様々な職種間での連携の重要性と方法を理解する。</li> <li>8. 社会福祉の歴史を学ぶ。</li> </ol>
授業の形式	講義・演習・(グループワーク)
成績評価の方法	<p>講義・(グループワーク) の参加態度 10%</p> <p>学科試験 (又はレポート) 90%</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野</p> <p>社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③</p>
メッセージ	

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	社会福祉の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスの社会福祉</li> <li>・日本の社会福祉</li> </ul>	非常勤講師
2	社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の概念と目的</li> <li>・社会保障の機能</li> <li>・社会保障の体系と内容</li> <li>・社会保障給付費</li> <li>・少子高齢化と社会保障制度</li> </ul>	〃
3	社会福祉の法制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法制度の歴史的展開</li> <li>・社会福祉サービスの内容と提供のしくみ</li> <li>・社会福祉法と福祉6法</li> <li>・社会福祉の財政</li> <li>・社会福祉の組織と実施体制</li> <li>・社会福祉の従事者と担い手</li> </ul>	〃
4	現代社会の変化  社会保障・社会福祉の 動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口・地域社会の変化</li> <li>・家族・個人の変化</li> <li>・経済状況の変化</li> <li>・雇用状況の変化</li> <li>・我が国の社会保障制度の動向</li> <li>・保健医療の動向</li> <li>・社会福祉の動向</li> </ul>	〃
5	医療保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保障制度の沿革</li> <li>・医療保障制度の構造と体系</li> <li>・健康保険と国民健康保険 保険者と対象者 給付と患者負担 費用負担</li> </ul>	〃
6	高齢者医療制度  保険診療のしくみ 公的負担医療 国民医療費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度創設の経緯と目的</li> <li>・医療費の適正化と特定健康診査</li> <li>・前期高齢者医療費の財政の調整</li> <li>・後期高齢者医療制度</li> <li>・診療報酬と薬価基準</li> <li>・診療報酬の審査支払</li> </ul>	〃
7	介護保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度創設の背景と歴史</li> <li>・介護保険制度の概要 基本理念 保険者 被保険者 要介護・要支援の認定 保険給付</li> <li>・介護保険制度の課題と展望</li> </ul>	〃
8	所得保障  労働保険制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得保障制度のしくみ</li> <li>・年金保険制度と歴史</li> <li>・年金保険制度の課題</li> <li>・雇用保険制度</li> <li>・労働者災害補償保険制度</li> </ul>	〃

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
9	公的扶助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困・低所得問題と公的扶助制度</li> <li>・ 生活保護制度のしくみ</li> <li>・ 低所得者対策</li> <li>・ 近年の動向</li> </ul>	非常勤講師
10	社会福祉の分野とサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者福祉 高齢者の状況 高齢者福祉の施策 老人保健事業</li> </ul>	〃
11	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の定義と実態</li> <li>・ 障害者福祉の理念</li> <li>・ 障害者福祉制度の変遷</li> </ul>	〃
12	障害者福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな法体系の整備</li> <li>・ 障害者福祉の関連施策</li> </ul>	〃
13	児童家庭福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童と家庭生活の現状</li> <li>・ 児童にかかわる法と施策</li> <li>・ 少子化対策と子育て支援</li> <li>・ 児童虐待対策</li> <li>・ 子供の人権と貧困対策</li> </ul>	〃
14	社会福祉実践と医療 ・ 看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉援助</li> <li>・ 個別援助技術（ケースワーク）</li> <li>・ 集団援助技術（グループワーク）</li> <li>・ 間接援助技術と関連援助技術</li> <li>・ 社会福祉援助の検討課題</li> </ul>	〃
15 (0.5)	社会福祉実践と医療 ・ 看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携の重要性 戦後医療と社会福祉との関係 医療提供システムと新たな連携の課題</li> <li>・ 社会福祉実践と医療・看護との連携 医療ソーシャルワーカー 医療・看護・福祉の連携の実際 連携の場面とその方法</li> </ul>	〃
	学科試験		

教 科 目 名	看護と法律 I	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 通年

学習目標	<p>目的：保健・医療に関係する諸法規の概念・目的を理解し、これらを基盤に看護職者として果たす役割の認識及び職責を正しく遂行するために必要とされる看護関係法令を学ぶ。</p> <p>目標：1. 法律の理念及び基礎知識を理解する。  2. 保健・医療に関する法律の種類、それらの理念・目的・内容を知る。  3. 看護師の定義・業務・義務、基盤である教育制度の保健師助産師看護師法について理解する。  4. 保健・医療に関する職種の定義・業務・義務等を理解する。  5. 衛生法規を中心とする地域保健に関わる法律と施策を理解する。</p>
授業の形式	講 義
成績評価の方法	筆記試験によって評価
教科書・参考書	<p>(教科書)  系統看護学講座  専門基礎 「看護関係法令」健康支援と社会保障制度[4] 医学書院</p> <p>(参考書)  系統看護学講座  専門基礎分野「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度 [3]  わかりやすい公衆衛生学 第4版 ニューヴェル ヒロカワ  統合分野 「医療安全」看護の統合と実践 [1] 医学書院</p>
メッセージ	<p>看護をはじめ医療という仕事は、人間の生命に直接関係するだけに、医療に携わる人の資格や業務内容が法律で厳格に規定されています。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を遂行するために、看護と法律との関係性について理解が必要です。また、看護職として看護を行うことは、多くの法律で決められたことが基盤となっています。これは、看護とは“医療”という人の生命や身体に侵襲を及ぼすおそれのある行為が含まれているため、法律によって医療を受ける人々を守り、また、医療を提供する人を守っています。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	法の概念  看護法	法の概念 衛生法について（概念・分類） 厚生行政のしくみ  1) 保健師助産師看護師法について 構造と附属法令 定義・免許・業務・義務・試験等 保健師助産師看護師法施行令 保健師助産師看護師法施行規則 保健師助産師看護師学校養成所指定規則 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	非常勤講師
3 4 5 6	医事法	医療法 1) 目的・医療体制の理念・定義など 2) 開設などの規制 3) 病院などの管理・人員・構造設備 4) 診療に関する諸記録など 5) 医療提供体制の確保など 6) 病床の機能分化、連携の推進 7) 公的医療機関・医療法人 医療関係資格法 1) 医師法 2) 歯科医師法 3) 薬剤師法 4) 診療放射線技師法 5) その他医療関係資格法について 保健医療福祉資格法 医療を支える法 1) 医療・介護提供体制に関する法 2) 移植医療に関する法 3) 地域振興における看護の役割に関する法 4) 人の死に関する法 5) 緊急時の看護・医療に関する法	〃
7 8	保健衛生法	1) 共通保健法 地域保健法・健康増進法 2) 分野別保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 母子保健法 がん対策基本法 他	〃
9 10 11	労働法と社会基盤整備	1) 労働法 2) ワークルール 3) 社会基盤整備など	〃

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2 1 3 (0.5)	薬務法	1) 薬事一般に関する法 2) 人などの組織を用いた医療関連法 3) 薬剤被害者の救済等 4) 麻薬・毒物等	非常勤講師
1 4 1 5	保健衛生法 環境衛生法  環境法	食品に関する法 1) 生活衛生関係の営業に関する法律 2) 環境整備 水道法・下水道法他  1) 環境保全の基本法 2) 公害防止の法 3) 自然保護法	〃
	学科試験		〃



教 科 目 名	看護と法律Ⅱ	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3 年次 後期

学習目標	<p>目的：患者や家族に対して全人的な看護ケアの実践を行うための必要不可欠な倫理的な感受性や洞察力を養う。</p> <p>目標：1. 医療法の中の、医療提供の理念と医療安全に関する規定について学ぶ。 2. 「看護過誤（医療過誤）」から、法的責任の実際を学ぶ。 3. ディベートの実践から「法と倫理」を学ぶ。</p>
授業の形式	講 義 / 演 習
成績評価の方法	GW 参加態度・レポート
教科書・参考書	<p>(教科書) 系統看護学講座 専門基礎 「看護関係法令」健康支援と社会保障制度[4] 医学書院</p> <p>(参考書) 系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度 [3] わかりやすい公衆衛生学 第4版 スーヴェル ヒロカワ 統合分野 「医療安全」看護の統合と実践 [1] 医学書院</p>
メッセージ	<p>看護師の役割は、傷病者や妊産婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことであり、“人を見る”という看護師独自の視点で観察や判断をし、患者さんの生命と生活を支えています。それらの場面の中で、「医師に指示されたからする」ということではなく、看護師自身が、「看護の専門職」として、まずは自分で考え、提供していく必要があります。しかし、医師はもちろん看護師などの医療スタッフが患者さんに対して行う行為の多くは、一歩間違えれば、かけがえのない誰かの生命・身体・健康を損なったり奪ったりしてしまうような危険を伴う行為であることを忘れてはなりません。</p> <p>「生命の尊重」と「個人の尊厳の保持」という医療提供の理念は、日々の看護実践の中で、時にジレンマに陥ったり、何が対象者にとって一番良いことなのか、簡単には答えの出せない場面を、今後多く経験することになります。</p> <p>今回のディベートを通し、「物事を多面的に捉えようとする姿勢」を養ってもらいたいと思います。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1 2 3 4 5	医療法と医療安全	1)医療法の中の、医療提供の理念と医療安全に関する規定 医療法の歩み（1980年富士見産婦人科病院事件） 2)看護過誤（医療過誤） 医療事故と法的責任・3つの法的責任 1999年 横浜市立大学病院事件 都立広尾病院事件 2000年 京都大学病院事件 東海大学病院事件 2001年 東京女子医大病院事件 について	専任教員
6 7 8 9	法と生命倫理	1)生命倫理の基本原則 2)臓器売買と有償の代理出産契約 3)積極的安楽死の法制化と違法性阻却要件 1962年 名古屋安楽死事件 1991年 東海大学安楽死事件	〃
10 11 12 13 14 15(0.5)	法と生命倫理  生命の尊厳（SOL）と 生命の質（QOL）	「日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである。 是か非か」 ディベート実践 2019年放送NHKスペシャル 「彼女は安楽死を選んだ」聴講	〃

教科目名	公衆衛生学	単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師	講義学年・学期	3年次 前後期

学習目標	<p>目的：公衆衛生の動向と地域社会における組織的な保健活動を理解し、集団における健康状態を判断する視点を養う。</p> <p>目標：1. 公衆衛生の歴史的発展と概念を理解する。  2. 健康に関係するデータから、人々の生活を取り巻く環境問題、衛生状況を理解する。  3. 公衆衛生に関わる保健活動や行政活動を体系的・組織的に理解する。  4. 公衆衛生の今後の課題を理解する。</p> <p>内容：1. 公衆衛生学概論  2. 健康と環境、疫学的方法（環境の概念、集団を扱う医学）  3. 健康指標（人口統計、生命表、疾病統計など）  4. 感染症とその予防  5. 食品保健と栄養（食の安全・食中毒、食品衛生管理、国民栄養など）  6. 生活環境の保全（地球環境問題、公害、水・空気的安全、  廃棄物処理など）  7. 医療・介護の保障制度（医療保障、高齢者医療、国民医療費、  介護保険など）  8. 地域保健活動（地域保健法、医療サービス・従事者、救急・災害医療）  9. 母子保健  10. 学校保健  11. 生活習慣病（生活習慣病の概念と予防、健康づくり、老人保健）  12. 難病対策  13. 健康教育とヘルスプロモーション  14. 精神保健福祉  15. 産業保健</p>
授業の形式	パワーポイントを用いた講義
成績評価の方法	学科試験
教科書・参考書	(教科書)「わかりやすい公衆衛生学 第4版」 ニューヴェルヒロカワ (参考書)「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会
メッセージ	公衆衛生学は、すべての医療関係者に必須な科目です。講義の対象範囲は非常に多岐にわたっていますが、看護学の各専門領域に対しても深く関わっていますので、そのことを意識して学習することを期待しています。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	公衆衛生とは	公衆衛生の概念、健康の概念、歴史
2	健康と環境 疫学的方法	健康の多要因、集団の健康被害の理解、集団検診、疫学
3	健康の指標	人口問題、人口動態統計、健康状態と受療状況
4	感染症とその予防	感染症の理解、感染症の動向と感染症法、感染症予防の基本 主要な感染症
5	食品保健と栄養	食品の安全、食中毒、食品衛生管理、国民の栄養
6	生活環境の保全	地球環境、日本の環境保全対策、生活環境の安全、ごみ・廃棄物の処理
7	医療・介護の保障制度	医療保障、医療保険、高齢者医療制度、公費負担医療 診療報酬、介護保険
8	地域保健活動	地域保健法の理念と指針、医療サービスの供給体制・マンパワー、救急医療・災害医療、ヘルスサービスの方向
9	母子保健	歴史経過、統計から見た母子保健の現状、母子保健の新たな課題
10	学校保健	学校保健制度の歩み、関係法令と関係団体、学校保健の対象と関係職員（養護教諭）、学校における保健管理業務、学校の感染症予防、学校環境衛生、学校安全、学校給食
11	生活習慣病・難病	生活習慣病の概念と現状、中高年に多い疾患の予防健康づくり対策、生活習慣病改善と健康、老人保健のあゆみ
12	難病対策	対策の歴史、難病法成立後の基本理念、定義と指定難病医療費助成制度ほか
13	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの定義、進め方、具体例
14	精神保健福祉	精神医療の歴史、精神保健福祉の法制度の変遷、近年の精神保健福祉行政、精神障害者のリハビリテーション 人間発達と精神保健
15 (0.5)	産業保健	健康に影響を与える労働環境・健康障害、労働衛生管理のしくみ、職業病とその対策、職業病以外の健康課題、労働者の健康増進施策